

令和 8 年 5 月 29 日

～看護の道 決意新たに～  
**春日部市立看護専門学校第 22 期生  
宣誓式を行います**

市は、6 月 6 日(土)に「春日部市立看護専門学校第 22 期生宣誓式」を行います。この式典は、2 年生がこれから始まる本格的な実習を前に、看護実践者になることへの覚悟と責任を自覚し、皆の前でその決意を誓うことを目的に行われます。

当日は、同校学生や保護者、来賓などが見守る中、一人一人副学校長からコサージュをつけてもらい、ナイチンゲール像から灯火を受け取った後、22 期生自らが考えた「誓いの言葉」を全員で斉唱し、看護の道へ進む決意を新たにします。

決意を新たにした第 22 期生は、市立医療センターで 9 月から実習を開始します。

日時 6 月 6 日(土) 午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分

会場 市立看護専門学校 2 階講堂

出席者 第 22 期生 31 人(2 年生)、保護者、来賓など

式典概要 灯火宣誓の儀、誓いの言葉、市長あいさつ、来賓祝辞、お祝いの言葉、花束贈呈など  
宣誓式の意義

日本での宣誓式は、大正 5 年、聖路加病院高等看護学院で初めて行われたのが始まりといわれています。当時は、戴帽式といわれ看護帽を戴くことが目的の式典でした。看護帽は「博愛・責任・清潔」の象徴といわれています。戴帽式では、この看護帽を戴く戴帽の儀と、近代看護の先駆者 F. ナイチンゲールがクリミア戦争の際、ランプを手にベッドからベッドへ傷病者を見回った時の灯火を想定したキャンドルサービスが行われるのが一般的でした。しかし、現代では、看護実践者が看護帽を身につけることは院内感染の原因になりかねないということで、臨床現場では廃止しているところが多くを占めます。

本校の宣誓式は、看護実践者になることへの覚悟と責任を自覚し、皆の前でその決意を誓うことが目的の式典です。この宣誓式をきっかけに、改めて自己の理想の看護師像について考えると同時に、本当に心から自分自身が看護師になりたいのかどうか自問自答し、また他者から見て自分自身が看護実践者にふさわしいかについて考える機会としています。そして、宣誓式は宣誓式係を中心に学生たちで作り上げます。

※式典中、「灯火宣誓の儀」「誓いの言葉」の際は、フラッシュ撮影禁止

問い合わせ先

春日部市立看護専門学校

担当: 小林 電話: 048-763-4311